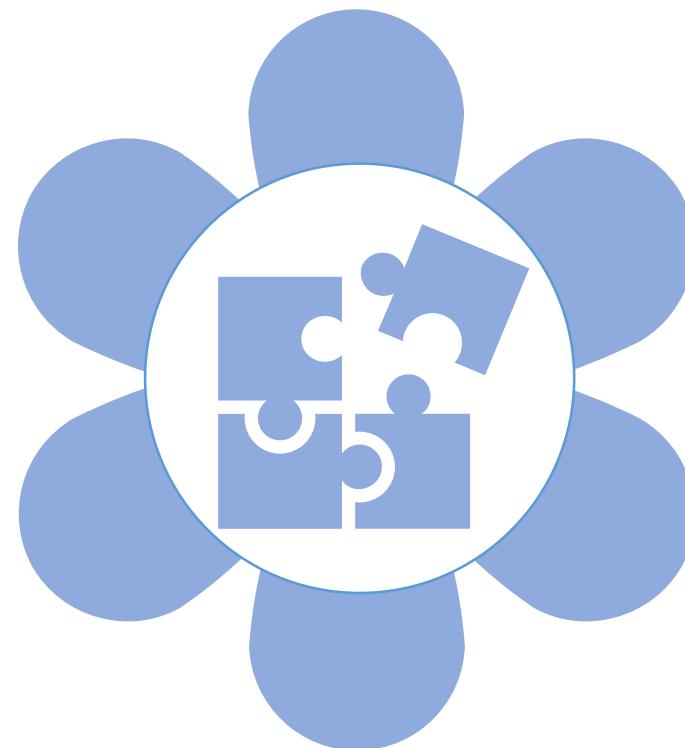
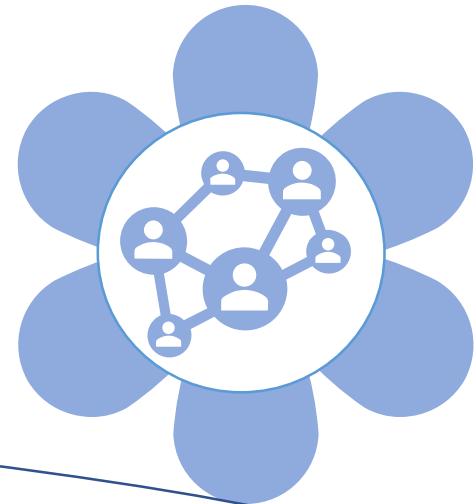
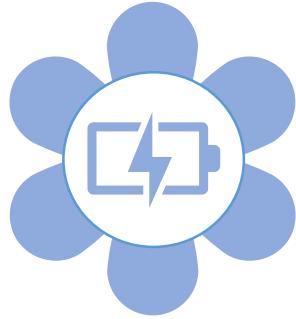
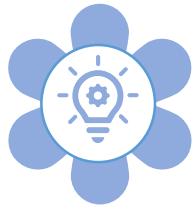


Univ. of Fukui Integrated Report 2022

福井大学 統合報告書2022



格致によりて
人と社会の未来を拓く



国立大学法人
福井大学
UNIVERSITY OF FUKUI

発行:国立大学法人福井大学財務部財務課

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1

TEL:0776-23-0500(代表)

URL: <https://www.u-fukui.ac.jp/>

発行年月日:令和5年3月



格致によりて 人と社会の未来を拓く

近代福井の礎（いしずえ）を築いた松平春嶽の揮毫による本学所有の「格致」の額面は、同人の歴史的功績を考えれば本学の宝であると言えます。「格致」とは「物事の道理や本質を深く追求し、理解して、知識や学問を深め得ること」という意味です。

本学学生にとっては、学びと人格育成に際し、また教職員においては、研究・教育・地域貢献等で自らの指針となる語句です。我々は、この語句を旨とし、県内より世界に至る様々な地域において、そこに集う人、ならびに社会の未来を拓くことに主体的にかかわり、貢献することを目指します。

福大ビジョン2040

この度、本学の理念を実現するための道標として、2040年に向け、福井大学の未来像を具現化するため「福大ビジョン2040」を策定しました。全教職員とともに理念とビジョンに基づいて、共感性を高め、果敢に挑戦していくものです。そして、地域の方々、同窓会などとともに、新たな未来を拓くことを囑望します。

ビジョンに示した2040年は先のことにも見えますが、社会の変革期に合わせて、本学の力を最大限に発揮するために、重要な目標地点になります。「福大ビジョン2040」は、地域の方々、同窓会、産業界、医療界、教育界、自治体、国等のステークホルダーの方々とも共有したく、本ビジョンを通じて一層の繋がりを深めていく所存です。

福大ビジョン 2040

- 理念を実現するための道標として、2040年に向け福井大学の未来像を具現化するために策定
- 教職員とともに理念とビジョンに基づき、共感性を高め果敢に挑戦
- ステークホルダーの方々とも共有し、繋がりを一層深化

○ 2040年における福井大学の未来像

➤ 世界に通じる地方総合大学

- バーチャルキャンパス、オンライン教育による世界とのアクセス拡大
- 国内外の大学・機関との結びつきの強化
- 地域連携プラットフォームを通じた県内高等教育機関との協働・地域共創

➤ 社会から頼りにされる、活力ある大学

- 福井県の特徴も踏まえたひとづくり・ものづくり・ことづくり、地域医療と地域教育の拠点機能、産学官金連携活動
- 教職員・学生「ここで働くこと、学ぶことにプライドをもち、今を生き生きと過ごす」

○ 福井大学の未来像に向けたミッション

1. 教育

2. 研究

3. 国際化

4. 地域共創

5. SDGs

6. カーボンニュートラル

7. 経営マネジメント

学長メッセージ

変動の激しい時代に先進する福井大学を目指して

本学では、福井の地より、世界の様々な地域において、そこに集う人と共に、持続可能な社会の実現に向けて、新たな未来を拓くことを目指しており、本学の存在意義と在り方を表した「格致（かくち）によりて人と社会の未来を拓（ひら）く」を理念として掲げております。また、本学の理念を実現するための道標として、2040年に向け、福井大学の未来像を具現化するため「福大ビジョン2040」を策定しました。これを重要な目標地点として、本学のあるべき姿を広く共有し、将来にわたり、これまで以上に、地域の知の拠点としての責務を果たせるよう、果敢に挑戦していきます。

さて、今もなお懸案であるコロナ禍は、全国的にも、また従来から強力な抑止体制の構築されている福井県下においても、猛威をふるっています。大学での学びも、コロナ禍当初の全学休業、オンライン講義スタートから、オンライン・対面のハイブリッドによる講義、そして現在の対面講義の原則化など、少しずつコロナ禍前の様子を取り戻しつつありますが、今なお予断を許しません。そのような中で、2021年度においては、「福大withコロナ対策コンペ『withコロナだからこそできることがある！』アイデアプランコンテスト」を実施し、学生・教職員含むキャンパス構成員全てに「コロナ禍においても大学生活をより良くする」ためのアイデアを幅広く募集し、優秀なアイデアを表彰するなど、学生の対コロナ面での健康を第一としながらも、大学でのアクティビティ回復も両立させるような試みを探り、ニューノーマル時代に適応した新しい大学運営を推進しています。

このような、かつてない大きな変化のなかで、本学では、この変化を契機に、更なる教育研究活動等の充実に向けて前進すべく、「福大ビジョン2040」に掲げる「世界に通じる地方総合大学」「社会から頼りにされる、活力ある大学」を目指していく所存です。

一方、国立大学法人を取り巻く現在の経営環境は、少子化や国による大学予算の削減等により非常に厳しい状況が続いております。このような中、本学の各分野におけるミッションを実現するため、ひいては本学の未来像を実現するためには、今まで以上の運営の効率化、研究成果の向上を図っていく必要があります。

この「統合報告書2022」は、財務諸表等の分析を通して業務の効率的かつ効果的な運営に活用するとともに、本学の現状を少しでも分かりやすく発信し、本学と様々な形で関わり、またご支援頂いている皆様に、本学の取組や財務状況へのご理解とご協力を深めて頂くことを目的として作成いたしました。

本報告書が、福井大学に対するご理解の一助となり、今後とも本学に対し、皆様からのさらなるご支援ご助言を賜りますよう、お願い申し上げます。

国立大学法人福井大学 学長

上田 尊典

Ueda Takanori



文京キャンパス

1949.5

福井大学発足

学芸学部、学芸学部附属小・中学校、工学部設置

1956.4

工学専攻科設置

1966.4

芸術学部を教育学部に改称

1993.4

大学院工学研究科博士後期課程設置、技術部発足

1999.4

教育学部を教育地域科学部に改組
遠赤外線領域開発研究センター設置

2002.4

アドミッションセンター設置

2003.10

旧福井大学と旧福井医科大学が統合
新福井大学が開学

2004.4

国立大学法人福井大学が発足、福井大学を設置
大学院工学研究科に独立専攻設置

2007.11

産学官連携本部設置

2009.4

附属国際原子力工学研究所設置

2011.4

語学センター設置

2012.3

附属国際原子力工学研究所を敦賀市に移転
「敦賀キャンパス」開設

2016.4

教育地域科学部を教育学部に改称
工学部8学科を5学科に改組
国際地域学部国際地域学科設置

2019.4

繊維・マテリアル研究センター設置
地域創生推進本部設置

2020.4

国際地域マネジメント研究科(専門職大学院)設置

2021.4

総合教職開発本部設置、総合戦略室設置

2021.5

リカレント教育推進本部設置

2021.7

データ科学・AI教育研究センター設置

2022.4

社会共創機構設置 SDGs推進室設置

沿革

昭和

松岡キャンパス

1978.10

福井医科大学設置

1980.4

福井医科大学開学

1983.4

医学部附属病院設置

1990.6

救急部設置

1994.5

高エネルギー医学研究センター設置

1999.4

リハビリテーション部設置

2006.4

臓器別診療科体制に移行(17診療科を25診療科に)

2007.4

治験・先進医療センター設置

2009.4

遺伝診療部、臨床教育研修センター設置

2012.4

子どものこころの発達研究センター設置

2012.8

福井県の総合周産期母子医療センターに指定

2014.9

医学部附属病院新病棟運用開始

2018.4

脊椎脊髄ユニット外来開設

2018.10

福井県アレルギー疾患医療拠点病院に指定
(健第953号) がんゲノム外来開設

2020.4

小児外科開設

2021.4

脳脊髄神経外科を脳神経外科に改称

2021.10

多用途型トリアージスペース設置

2022.4

高度生殖医療センター設置

平成

令和



構成

▶ キャンパス面積

文京 110,248㎡
松岡 270,230㎡



▶ 教職員数^{※1}

2,176人

事務局職員 306人 教育系教職員 133人 国際系教職員 26人
工学系教職員 160人 医学・病院系教職員 1,462人
センター等教職員 89人



学生数

▶ 学部生^{※1}

3,978人

教育学部 428人 医学部 953人
工学部 2,334人 国際地域学部 263人



▶ 大学院生^{※1}

964人

教育学研究科・連合教職開発研究科 99人
医学系研究科 176人 工学研究科 674人
国際地域マネジメント研究科 15人



実績

▶ 進路決定率

98.4%

国立大学1位
15連覇達成

教育学部 97.1% 医学部 97.6%
工学部 98.5% 国際地域学部 96.8%

▶ 教員免許取得状況^{※2}

R3年度 414件 R2年度 477件
R元年度 446件 R30年度 470件
R29年度 475件



▶ 特許取得数

R3年度 45件(国外12件) R2年度 26件(国外4件)
R元年度 19件(国外1件) H30年度 12件(国外2件)
H29年度 26件(国外4件) H28年度 27件(国外3件)
H16~H27年度 235件(国外18件)



▶ 国家試験合格率^{※過去5年間の平均}

医師 93.9% 保健師 100%
助産師 100% 看護師 99.6%



▶ 海外派遣学生数(オンライン等含む)^{※3}

アジア 17人(13) 北米 9人(6)
欧州 17人(12) 大洋州 4人(4)



▶ 技術相談件数

R3年度 423件 R2年度 499件
R元年度 548件 H30年度 653件
H29年度 392件 H28年度 286件



※1 R4年5月1日現在
※2 幼稚園、小学校、中学校、高校の教員免許取得数の延べ数
※3 ()はオンライン等による海外派遣学生数であり、内数

「学生交流センター」の新設



グローバル社会において地域創生を担う人材の育成を目的に、これまでより一層の教育の機能強化を図るための拠点「学生交流センター」が新設されました。同施設は、老朽化した旧学生会館の跡地に建設され、建築面積720.68㎡、延べ床面積1,908.84㎡のRC造3階建。キャンパス内で点在していた入試課・アドミッションセンター、国際課・国際センター・語学センター、キャリア支援課・キャリアセンターを集約し、学生同士が交流できるラウンジやグローバルハブ(施設名称:セーレン グローバルハブ)などが

が設置されています。今後この施設が学生交流の拠点となり、留学生と日本人学生の交流がこれまで以上に活発化することが期待されています。

令和3年12月14日に行われたオープン記念式典では、上田孝典学長が「入学から卒業までのシームレスな学生支援、グローバル教育を一層推進する」と挨拶、続いて明石行生国際担当副学長が「センターを核として、多様な学びの機会を提供し、学生が意欲的・主体的に学べるキャンパスにしていく」と今後の展望を述べました。



福大withコロナ対策コンペ

「withコロナだからこそできることがある！」学生アイデアプランコンテスト

「withコロナだからこそできることがある！」をテーマにした学生アイデアコンテストを開催しました。学生目線の発想で“こうだったら良いのに”“こうなれば良いのに”などコロナ禍においても大学生活をよくするアイデアを募集し、45名の応募がありました。学長をはじめとした4名の役員の審査により優秀なアイデア10点を選出し、それぞれ最優秀賞、優秀賞、企画賞として表彰しました。



<受賞アイデア一覧>

- ◆最優秀賞
「VR(Virtual Reality)で臨場感MAX!! 感染リスクはMINIMUM??」
- ◆優秀賞(Ameigingアイデア賞)
「学生向けに作られた、福井大学の公式LINEの作成」
「福井大学マスク」
- ◆Greatアイデア賞
「リアルタイムコメントシステム」
「福井大学Wi-Fiマップ」
「一人だけど一人ぼっちじゃない」
- ◆Goodアイデア賞
「LINEで気軽に相談! 学生総合相談室」
「Which do you choose, 対面orオンライン?」
「福大学会の開催」
- ◆企画賞(Goodアイデア賞)
「トラベルティーチャー」



CONTENTS

◆ビジョン・戦略……P1

◆教育・研究成果……P3

◆各学部・研究科等紹介…P7

教育学部／教育学研究科・福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科

医学部／医学系研究科

工学部／工学研究科

国際地域学部／国際地域マネジメント研究科

医学部附属病院

◆キャンパス環境……P17

◆ガバナンス体制……P19

◆福井大学基金(羽ばたけ基金) ㊦…P21

◆財務状況・財務諸表……P23

◆公開情報……P33

福井大学の ビジョン・戦略

第3期中期目標(平成28～令和3年度) における本学の機能強化を推進

ビジョン

福井大学は、健康長寿、幸福度日本一、子どもの高学力、最多の原子力発電所立地、オンリーワンの技術を持つ企業の集積などの特徴を持つ地域に立脚する唯一の国立大学法人として、グローバル化社会で活躍できる教師、医師・看護師、エンジニアなどの高度専門職業人や地域創生を担う人材の育成と、本学の強みや地域の特性を踏まえた先端的画像医学、原子力安全、先進的教師教育研究などの特色ある分野における優れた科学的価値の創造を通して、イノベーションの創出と持続可能な地域創生に貢献します。



戦略 1

入試改革と教育の国際化等を通じた地域が求める 特色あるグローバル人材の育成

入口から出口までを見据えたグローバル人材育成として、入試改革により優れた学生を選抜し、国際標準の教育の推進、学生の修学支援強化や語学センターの組織整備による国際化等の改革を通じて機能強化した教育を提供することで、各分野において優れた人材を育成します。特に本学の強み・特色である先進的教員養成・教師教育分野や最多の原子力発電所が立地する地域特性を活かした原子力分野でのグローバル人材輩出を一層推進します。

主な取組のロードマップ

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
【取組1】 教育の国際通用性向上と地域一体型教育の推進によるグローバル人材育成地方型イニシアティブ	国際通用性を有する教育課程整備 CAP制の見直し	ナンバリングの整備	海外協定校20%増 留学生15%増	アクティブ・ラーニングが6割 授業外学修時間が1.5倍		
【取組2】 国際地域学部と一体化した語学センターの組織整備		日本語教育部と英語教育部による英語・日本語教育の充実 共通教育英語の多様化、専門教育と関連した英語教育の展開				
【取組3】 新三位一体改革のさらなる前進を目指して「総合教職開発本部設置」による国内外の教職専門性の向上とインクルーシブ教育の充実	義務教育 学校設置	連合大学院設置		修士課程と 教職大学院の一元化		
【取組4】 原子力発電所最多立地特性を活かした産学官統合型グローバル原子力人材育成プログラム		海外インターンシップ 対応カリキュラム設計・実施		学部・修士一貫 教育構築	教員キャンパスで 学ぶ学生数概ね80人	
【取組5】 大学間共同の高大連携と評価手法の開発研究による高大接続入試への提案		国際地域学部での高大接続型入試 評価手法等の開発		他学部での高大接続型入試のH34導入・拡大 H34入試に向け検討・導入		

戦略 2

特色と強み地域特性を踏まえた研究分野における 「知」の創出と研究拠点形成

ビジョンに掲げる「優れた科学的価値の創造を通して、イノベーションの創出と持続可能な地域創生に貢献する」ため、本学の強みである画像医学、遠赤外線領域開発、地域の特性を踏まえた特色ある原子力安全の分野において、学長のリーダーシップに基づき、資源の集中・有効活用と学内異分野融合や地域・国際ネットワーク(大学間等連携)による先端的研究を推進して、研究業績を先鋭化し、国際・全国レベルの研究拠点形成を進めます。

主な取組のロードマップ

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
【取組6】 世界をリードする生体機能画像研究の医工連携を踏まえた発展的展開						分子イメージング法による各種脳変性疾患の鑑別診断法の確立、診療への応用 発達障害児等の機能の低下した脳域領域に対する治療法の検討・開発
【取組7】 世界最高レベルのジャイロトロン技術を基盤とする遠赤外線領域開発・応用研究の国際拠点組織整備	改組 国際ワークショップ		若手海外研修プログラム等の実施 国際ワークショップ		国際ワークショップ	
【取組8】 原子力安全・危機管理分野の国際研究・人材育成拠点化の推進			高効率MA核変換炉の核設計手法の開発 緊急時汚染状況下で核種弁別する技術の開発			福島第一原子力発電所の燃料デブリ分析・廃炉技術に関わる研究・人材育成
【取組6～8共通】 研究業績の増加			国際シンポジウム、国内・国際共同研究件数、学術誌への英語論文掲載数を20%増加			論文の被引用数を第2期より増加

戦略 3

教育・産業・医療等における知の拠点としての 地域創生の取組推進

すべての年代の地域住民を視野に入れ、児童・生徒に対しては先進的教育の提供、社会人には学びを支援するシステムの構築、地域産学官金で設立された「ふくいオープンイノベーション推進機構」と連携した共同研究の実施、高齢者には多職種連携によるICTを駆使した在宅医療や救急医療の推進を通じて、地域創生の知の拠点を目指します。

主な取組のロードマップ

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
【取組9】 初等中等教育から社会人教育までをカバーした学びの支援イニシアティブ						社会人の学び直しプログラムの科目数や受講者数を第2期よりも増加 緊急被災く医療教育法の研究・充実を図り、実戦力のある人材を育成 スーパーサイエンスハイスクール、スーパーグローバルハイスクール事業への参画
【取組10】 産学官連携・地域イノベーション推進機構の組織的機能拡充					研究源流にニーズを反映させるコーディネーション活動、個別基盤的共同研究推進支援 共同研究ラボおよび企業内サテライトラボの設置推進、活用支援	特定研究開発にリソースを集中した拠点形成 自立的経営を可能とするシステム構築
【取組11】 超高齢化社会に対応する総合地域医療モデルの構築-多面的なICT活用による大学・附属病院の力(先端医学研究・命を守る最後の砦)と地域の力(多職種連携と住民間支援による見守り)を統合した先進地域医療ネットワーク-						卒前から卒後まで途切れることのない多職種連携教育プログラムの実施 高齢者見守りシステム・クラウド型救急医療連携システムの研究・運用 [ソーシャルキャピタル][新地域包括ケアシステム]の確立に向けた研究在宅医療・介護サービスに従事する医療従事者等の養成

本学の機能強化を推進するための活動状況

第3期中期目標期間において、本学の機能強化を推進するために各分野で取り組みを実施。

教育 [戦略1]

総合教職開発本部の設置と教員養成フラッグシップ大学の指定

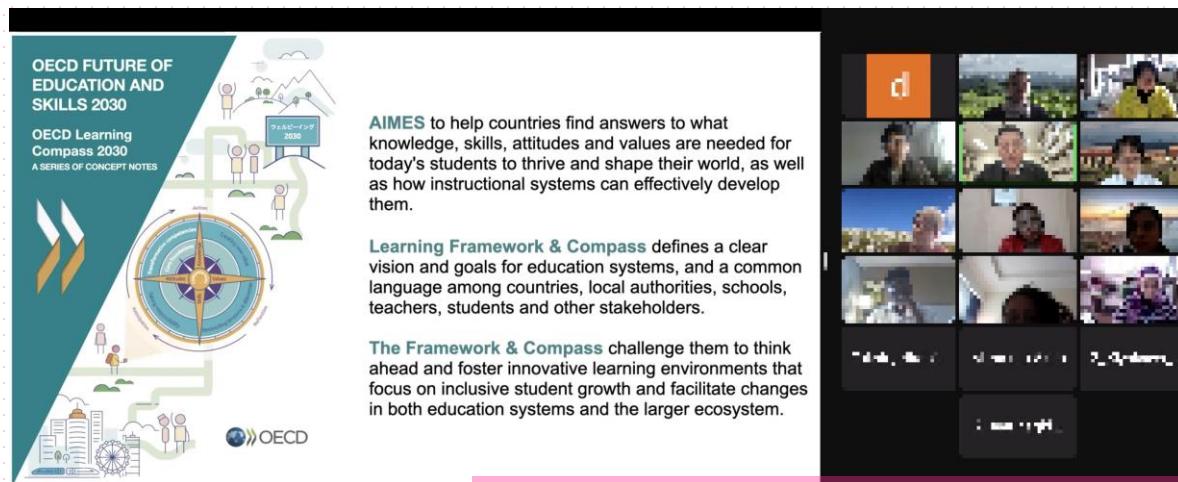


令和3年4月、国内外における教職専門性形成を支え、学校改革・教師教育改革のさらなる推進のため、全学組織として総合教職開発本部を創設しました。教職課程・教員免許センターでの教職課程認定のほか、現職の学校教諭を対象とした研修やインクルーシブ

ブ教育の推進、学校を基盤とした教師教育システムの海外への発信を行います。

海外の教員研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面からオンラインに変更し、タイの管理職教員研修やアフリカ諸国から参加があった国際協力機構(JICA)課題別研修等を行いました。

また、令和4年3月には、「令和の日本型教育」を担う教員の育成を先導する大学として、文部科学省より教員養成フラッグシップ大学(全4大学)の指定を受けました。令和の教員養成の在り方を変革していく牽引(けんいん)役として、今後一層の教員養成の充実・高度化を進めていきます。



オンラインでのJICA課題別研修実施の様子

研究 [戦略2]

原子力安全・危機管理分野の国際研究・人材育成拠点化の推進

敦賀市、福井県等の周辺自治体と連携し、地域の原子力防災体制の強化や、原子力安全・防災に係る人材育成に寄与することを目的として、軽水炉および高速炉の安全性向上や、原子力施設の廃止措置研究および放射性廃棄物の減容など、原子力の喫緊の課題に関する先進的研究を推進し、共同研究や国際共著論文の発表を行いました。

また、新たに福島第一原子力発電所の廃炉を始めとした原子力分野の課題解決に貢献するため、3年間の計画で課題解決型廃炉研究プログラムに他機関と連携した取り組みを開始したほか、京都大学とともに令和2年度より採択された「もんじゅサイトに設置する新たな試験研究炉の概念設計及び運営の在り方検討」事業では、JAEAを代表とする中核機関として、「中性子の医療利用」、「中性子科学の基礎」をテーマとした2回のセミナーや若手勉強会を開催しました。

このほか、CHRNBL35(CHRNBL-FORUM)において「Ten years at FUKUSHIMA」を講演、欧州宇宙機関専門家Gatewayプロジェクトのための外部評価、OECD/NEAの依頼によるモスクワ物理工業大学(MEPHI)セベルスク校の廃止措置に係る教育プログラムのレビュー、ベトナムとのオンライン交流会を行うなど、国際的な活動も推進しています。

ベトナムとのオンライン交流会の様子



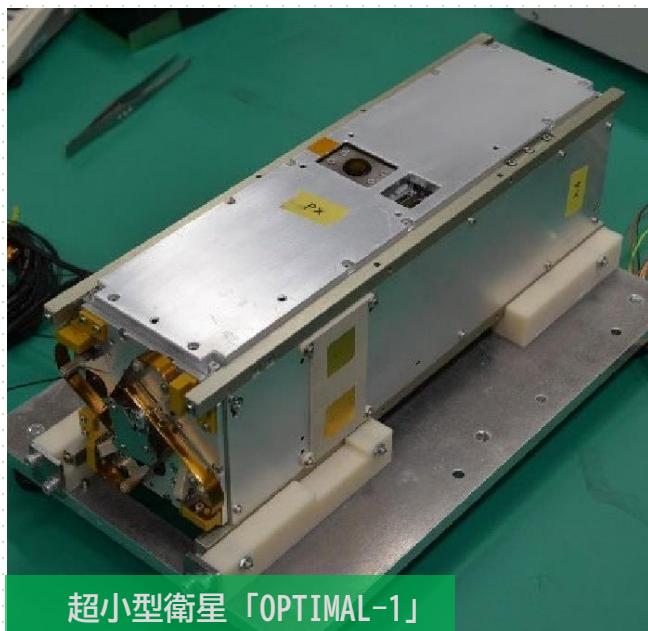
地域創生 [戦略3]

産学官連携・地域イノベーション推進機構の組織的機能拡充

全学組織である産学官連携本部内に、新たに附属社会実装研究センターを設置しました。

国等の競争的研究費を原資とする研究成果のうち、社会実装を実践する段階にある事業について、センター内に個々の事業化テーマに関する研究ユニットを配置することで、URAの伴走による研究開発マネジメントや関連企業との交渉、知的財産管理・活用支援など、社会実装に向けた様々な支援をこれまで以上に効率的・効果的に受けられる環境を構築しています。

大学発ベンチャー等との一体的な事業化への取組みを強力に推進し、地域創成の「知の拠点」としての役割を果たしていくとともに、国立大学法人としての「稼ぐ力」の向上に資することが期待されています。



超小型衛星「OPTIMAL-1」



超小型工学エンジンの試作モデル

医療

高度生殖医療センターの開設

福井県では、高度不妊治療を求める患者さんの1/3が県内で治療を完結できず、県外の施設に流出しており、県内の不妊治療体制と患者ニーズにミスマッチが存在していました。さらに、コロナ禍で県外との往来自粛を余儀なくされ、地域完結型の不妊治療体制の確立が強く求められるようになりました。

本院は福井県の要請に応え、令和4年5月に高度生殖医療センターを開設しました。福井県における生殖医療の拠点として、①最新・最適な高度生殖医療を提供するとともに、②生殖医療に関する患者支援、③医療機関・行政との連携、④県民への教育啓蒙活動、⑤医師・看護師・胚培養士の人材育成、⑥研究 を担っていきます。

さらには、情報通信技術ICTやSNSを活用して、県内全域をカバーする不妊治療の医療連携ネットワークを構築し、県内完結型の高度不妊治療体制の確立を進めます。不妊治療に関する患者・医師の双方の画期的な取り組みになると期待しています。



教育学部／
福井大学・奈良女子大学・
岐阜聖徳学園大学連合教職
開発研究科

新しい時代に生きる子どもたちの
未来をひらく教師をめざして



特色あるカリキュラム

探求ネットワーク事業(学部教育)

子どもたちと共に、人形劇、料理作り、まちかど調査隊、FFC(ふれあいフレンドクラブ:障がいのある子どもたちが対象)などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養います。

ライフパートナー事業(学部教育)

学生が、不登校/発達障がい児童生徒の学校や家庭を訪問し「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助します。共に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」として活動します。この事業には、子どものこころの発達研究センターも参加しています。

特色ある3大学による「連合教職大学院」(大学院教育)

本学を基幹校に、教員養成に優れた実績を持つ奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学が参加して、評価の高い学校拠点方式を軸とした3つのコースにより、若い世代の教員や学校で核となる教員、管理職を養成します。

◆ 令和3年度財務情報(単位:百万円) ※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	97
研究経費	46
受託事業費等	13
人件費	766
業務費用計	922

区分	金額
運営費交付金収益	717
学生納付金収益	296
受託事業等収益	13
寄附金収益	4
雑益	6
その他収益	19
業務収益計	1,055

実績

「嶺南地域教育プログラムに関する連携協定の締結」

「嶺南地域教育プログラム」は福井大学教育学部・福井県教育庁嶺南教育事務所および嶺南地域の2市4町の教育委員会の8機関による連携協定を締結し、令和4年度に開講します。本プログラムでは、嶺南地域の市町の協力の下、地域を知るための講義・演習および嶺南地域での学校体験、教育実習を計画。さらに、1年次科目「嶺南地域学A」については、教育学部全1年生が受講可能となっており、広く地域理解をすすめてもらうことを目指しています。

「次世代を担う理数系人材の育成」

本学教育学部を中心に、県内の教育機関や経済界などが連携して未来の科学者を育てる「ジュニアドクター育成塾」を平成30年度から開講しています。事業4年目となる令和3年度は、第三期生の第二段階プログラム及び第四期生の第一段階プログラムを実施しました。本学部の教員を含む大学研究者等の支援を受けて、第一段階プログラムでは修了生16名が「ジュニアマスターふくい」に、第二段階プログラムでは修了生10名が「ジュニアドクターふくい」に認定されました。

コロナ禍に伴う対面的活動の制約によって、オンライン形式による講座提供が中心となっていますが、一部講座・実習においては対面で開講したのもあり、活動の一部を対面で実施する兆しも見えています。

区分	金額
建物	723
構築物	5
その他固定資産	25
流動資産	13
帰属資産	767



医学部／医学系研究科

愛と医術で人と社会を健やかに



特色あるカリキュラム

医学教育の国際標準化

医学科では、平成28年度に世界医学教育連盟が定める「医学教育グローバルスタンダード」に基づくモデル・コア・カリキュラムに準じた教育課程を編成し、高度専門職業人として国際通用性の高い医師の育成を促進しています。

革新的画像医学教育:高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、十分に活用できる医師を養成しています。

看護教育:多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成

幅広い職業選択(看護師・保健師・助産師)ができる独自カリキュラムを実施しています。また、社会のニーズに応え、多職種連携の在宅医療を担う看護師教育の充実を目指し、医学科生とチーム医療を意識した「地域ケア実習」を実施しています。

◆ 令和3年度財務情報(単位:百万円) ※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	295
研究経費	293
受託研究費	65
共同研究費	11
受託事業費等	71
人件費	1,710
業務費用計	2,444

区分	金額
運営費交付金収益	1,308
学生納付金収益	575
受託研究収益	76
共同研究収益	12
受託事業等収益	75
補助金等収益	96
寄附金収益	317
施設費収益	51
雑益	61
その他の収益	90
業務収益計	2,662

実績

「ソーシャル・キャピタル(地域の絆による健康効果)による地域包括ケアシステムの展開」

福井県大飯郡高浜町において、多分野の住民・行政・専門職が参加し、対話による解決策検討を行う住民参画型のオンライン会合を6回開催しました。この会合の中で実施された「赤ふん坊や体操オンラインチャレンジ」には、76名の町民が参加するなど、住民の主體的な健康づくりに寄与しました。また、高浜町、JCHO若狭高浜病院、福井大学が提携し、合同部署「たかはま地域医療イノベーションセンター」を設置しました。三者の協働と地域主体の取り組みにより、「地域主体の健康のまちづくり」を推進していきます。

「北陸高度アレルギー専門医療人育成プラン」

令和元年度より実施している本事業では、アレルギー専門医育成システムの構築を目指し、e-learningを利用した教育コースの作成や、Web会議による北陸3県の大学・病院で行う症例検討会、難治性アレルギー疾患データベースの構築等を実施しています。また、一般市民の啓蒙を目的とした公開講座も年2回開催しており、令和3年度においては公開講座に加えて「戦おう！アレルギーと新型コロナ」と題した特別講演会を実施するなど、地域のアレルギーに関するヘルスリテラシーの向上にも寄与しています。

区分	金額
建物	2,270
構築物	133
その他固定資産	353
流動資産	78
帰属資産	2,834



工学部／工学研究科

夢を形にする技術者、IMAGINEERをめざして



特色あるカリキュラム

Global Imagineerの育成

本学では、その想いを世界の人々へと拡張するGlobal Imagineerへの挑戦を平成24年度より開始しています。英語教育も、コミュニケーションツールを得ることのみならず、思考の枠組みを拡張することを目指して推進しています。

自己変容型知性を育む創成教育への挑戦

教育がなすべきことは、どんな状況になってもしなやかに生き延びることのできる「知性」を育むこと。そうした知性を育む方法論は確立していませんが、私たちは学科・学年の枠を越えた主体的グループ活動を分野横断型の教員組織で支援する創成教育を通じて、新たな能力育成に挑戦しています。

産業現場への即応、そして次世代産業の創成

産業界からの実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム(実践道場)や次世代組織・ファイバー工学分野の人材育成といった多様なプログラム等を通じて、高度専門技術者の育成に取り組んでいます。

◆ 令和3年度財務情報(単位:百万円) ※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	275
研究経費	323
受託研究費	66
共同研究費	86
受託事業費等	5
人件費	1,666
業務費用計	2,421

区分	金額
運営費交付金収益	1,505
学生納付金収益	1,620
受託研究収益	80
共同研究収益	106
受託事業等収益	6
補助金等収益	20
寄附金収益	53
雑益	27
その他の収益	65
業務収益計	3,482

実績

「新たな英語教育プログラムの導入」

令和3年度より工学部2年生向け共通教育科目である「英語V」及び「英語VI」においてクラウド型e-learningシステムを全面導入し、同年4月から運用を開始しました。時間と場所を問わず繰り返し学習できることにより、学生の英語技能の向上に役立っています。今後も授業担当教員と教務課の協働により、学期途中においても改善策の検討や科目運用の見直しを行い、同プログラムを継続して実施していきます。

「県の補助金を活用したPBL教育の実施」

令和2年度より福井県の補助金である「FAA学ぶならふくい！応援事業」の支援(総額1,500千円)を得ており、引き続き令和3年度においても、学内予算1,624千円と合わせて博士前期課程の学生を対象としたプロジェクト型学習(PBL)を実施しました。コロナ禍の中でも、例年に近い17件のプロジェクト(切削加工技術コンテストへの出展を通じた精密加工プロジェクト、発達障害や学習障害を抱える児童生徒へのICTによる支援技術の開拓、原子力施設で発生する廃棄物の処分及び再利用に関する社会理解促進方策の提案等)が開講され、65名の学生が受講しました。これらを通じ、課題認識力、問題解決力、行動力等の習得が促され、実践能力を持つ人材育成に貢献しました。

区分	金額
建物	1,282
構築物	13
その他固定資産	171
流動資産	46
帰属資産	1,513



国際地域学部／ 国際地域マネジメント研究科

未来志向で、地域に織り込む世界へのまなざし



特色あるカリキュラム

世界と地域を繋ぐ徹底した英語教育と海外留学を通じた異文化理解教育

グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、海外留学を含めた多様な経験の機会を提供しています。

地域の企業・自治体等と連携した地域密着型課題探求プロジェクト

福井の企業や自治体等の現状・課題を調査し、問題解決の一端を担います。意思決定や批判的な思考を育むとともに、リアルな現場としての社会を理解し、それに適応する能力を身につけます。

医学部・工学部との連携による幅広い学識を培う文理融合型教育

現代の地域社会が抱える複合的かつ具体的な問題に対し、その解決に向け、自然科学系の基礎的な知識や方法の助けを借りて、複合的なアプローチを図ります。

◆ 令和3年度財務情報(単位:百万円) ※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	45
研究経費	9
共同研究費	1
人件費	270
業務費用計	325

区分	金額
運営費交付金収益	248
学生納付金収益	148
共同研究収益	1
雑益	2
業務収益計	399

実績

「国外の学術交流大学の拡大」と「海外大学の提供するオンライン授業(プログラム)を開催」

令和3年度より新たに1大学と部局間協定(ハンガリー:カーロリ・ガシュパール大学人文社会学部)を締結し、14大学と協定の更新を行いました。また、令和元年から中断していた交換留学の学術交流協定校への派遣について、令和3年度Ⅱ学期2022年春派遣(2021年度Ⅱ学期)を再開し、令和4年1月～2月までにアメリカ、イタリア、韓国、タイ、ポーランド、リトアニア、ルーマニアに12名の学生を派遣しました。

「課題探求プロジェクト(PBL)による地域課題についての学びの実施」

コロナ禍による制約があったものの、令和3年度も地域と協働して活動を行いました。2年生は「福井の観光振興を目指して～ドライブコースによる福井の魅力発信～」など10テーマ、3年生は「The Recent Condition of Foreign Students in Fukui」などの14テーマについて活動を行い、また、福井市中央公園での映画野外上映会イベントや、W.E.グリフィスに関連した「福井で見るサンタの夢」に関する活動などを実施しました。

区分	金額
建物	1
流動資産	3
帰属資産	4



医学部附属病院

最新・最適な医療を安心と信頼の下で



主な取組

県内で唯一の特定機能病院として先進医療を提供

「地域医療の最後の砦」として最重症疾患患者を受け入れています。

急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上に資する「クラウド型救急医療連携システム」の開発

福井県内の5消防本部12救急隊、福井県防災ヘリコプターおよび急性心筋梗塞救急搬送指定医療機関の5病院に導入され、へき地の救急要請現場から心電図の送信が可能になったことにより、急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上を実現しました。

大学附属病院初の北米型ER救急体制

一次救急から三次救急まで、全ての患者のニーズに応じた救急医療を365日24時間体制で実践しています。

◆ 令和3年度財務情報(単位:百万円) ※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	33
研究経費	81
診療経費	13,490
受託研究費	126
受託事業費	114
人件費	9,142
一般管理費	69
財務費用	69
小計	23,125

区分	金額
運営費交付金収益	2,304
附属病院収益	19,551
受託研究収益	155
受託事業等収益	117
補助金等収益	850
寄附金収益	24
施設費収益	1
雑益	64
その他の収益	265
小計	23,331

実績

「COVID-19への対応と高度先進医療提供の両立」

県からの協力要請に応じ、年間を通じて県の入院コーディネートセンターに医師、看護師、コメディカル等を派遣、患者搬送トリアージの指揮をとり、県内のCOVID19患者の円滑な入退院を支援しました。

さらに、令和3年度のCOVID-19への対応として、一般病棟(48床)の一つをCOVID-19専用病棟に転用した34床の中軽症受入等病床に加え、ICUに3床の重症受入病床を確保し、診療制限を行いながらも、緊急性の高い治療を優先する等、特定機能病院として本院が本来担うべき診療を保持しながら、令和4年3月までに238名の陽性患者を受け入れました。

また、令和3年1月にCOVID-19ワクチン接種の基本型接種施設に指定され、地域の医療従事者、本学学生・教職員(家族を含む)、近隣企業等のワクチン接種を担い、現在も継続して地域のCOVID-19対策を支えています。

区分	金額
土地	7,728
建物	13,338
構築物	379
その他固定資産	3,276
流動資産	4,032
帰属資産	28,753



キャンパス環境

施設整備・設備整備

松岡キャンパス

(松岡)看護学科校舎 空調・換気設備改修0.2億円

松岡)看護学科校舎(西)屋根防水・外壁改修 0.4億円

(松岡)テニスコート改修 0.2億円

(松岡)多用途型トリアージスペース新営 0.9億円

文京キャンパス

(文京)学生交流センター新営 5.4億円

(文京)屋外給排水管改修 1.3億円

(文京)工学部棟トイレ改修 0.7億円

(二の宮)駐車場整備 0.7億円

設備整備

教育用設備整備 0.23億円

現有のSimMan2体と新規購入のSimBabyを人工呼吸管理シミュレータとして導入しました。医学部生に呼吸器シミュレーション実習を行うなど感染症教育の充実を図りました。



診療用設備整備 0.48億円

光学医療診療部に、多種多様な観察モードを備えた最新の内視鏡システム群を導入しました。機器構成の異なる2式のシステムのほか、Aiを活用した診断支援機能を備えており、多岐に渡る消化管系疾患に対し、より高度な診断・治療対応ができるようになりました。



ガバナンス体制

本学では、国立大学法人法に基づき、国立大学法人の重要事項を審議する機関として、役員会、経営協議会、教育研究評議会を設置しているほか、これら法定会議に附議する事案の調整を行うため、全学運営委員会を設置しています。

役員会は、国立大学法人法第11条第3項に定める重要事項を審議する機関であり、学長、理事6名の7名で構成されています。

また、学長は、国立大学法人法に基づく学長選考・監察会議の選考を経て、法人の申出に基づいて文部科学大臣によって任命されます。なお、学長選考・監察会議の委員は、経営協議会構成員から5名と教育研究評議会構成員から5名の10名で構成されています。

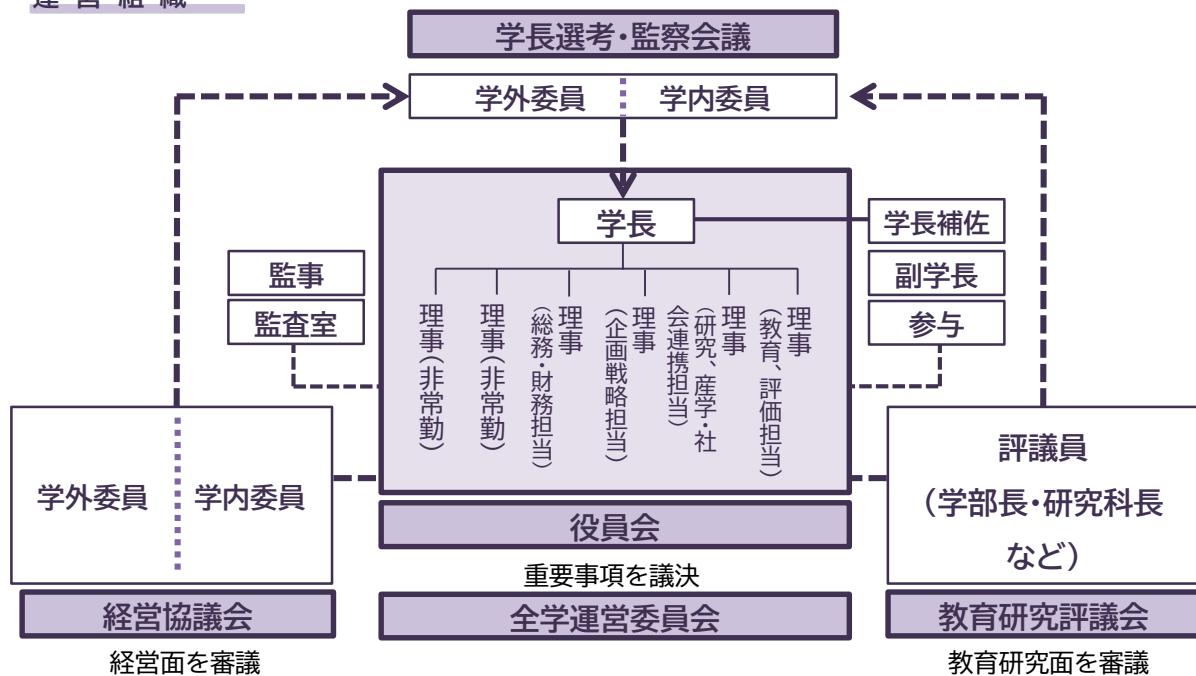
経営協議会は、国立大学法人法第20条第5項に定める経営に関する重要事項を審議する機関であり、学長、理事4名、副学長3名及び学外の有識者9名の17名で構成されています。

教育研究評議会は、国立大学法人法第21条第4項に定める教育研究に関する重要な事項を審議する機関で、学長、理事4名、副学長3名、各学部長4名、研究科長2名、部門の教員3名、学部の教員4名及び学長が指名する者5名の26名で構成されています。

大学経営の中軸をなす学内資源配分については、全学運営委員会にて要求事業のヒアリングや部局間の調整を行い、戦略的な資源配分について審議が行われます。その後、経営協議会及び役員会の議を経て、予算編成方針・予算案が決定されており、大学としてのガバナンス体制が実現されています。

また強靱なガバナンス体制を構築するため、本学は、国立大学法人ガバナンス・コードを基本原則として、教育・研究・社会貢献機能を最大限発揮するための経営機能を高め、併せて、経営の透明性を向上させ社会への説明責任を果たし、社会の皆様からの信頼と理解を得続けられるよう努めています。

運営組織



監事監査

監事は、業務の適正かつ効率的な運営を確保すると共に、会計経理の適正を期することを目的に監査を実施しています。監査の方法は、内部監査部門や会計監査人と連携し、毎年度の監査計画に監査事項を設定して実施するほか、役員会・教育研究評議会・経営協議会やその他重要な会議に出席し、ガバナンス体制や学長及び理事の職務の執行が法令などに適合することを確認しています。

令和3年度の監査実績

- 内部統制の整備及び運用状況(コンプライアンス、リスク管理含む)
- 中期計画および年度計画の実施状況
- 国立大学法人ガバナンスコードの適合状況等の報告に係る取組状況
- 予算の執行および内容の把握ならびに決算の状況
- 医学部附属病院の運営に関する事項
- 人事制度見直しに関する取組ならびに運用状況
- これまでの監査指摘・提言事項のフォローアップ

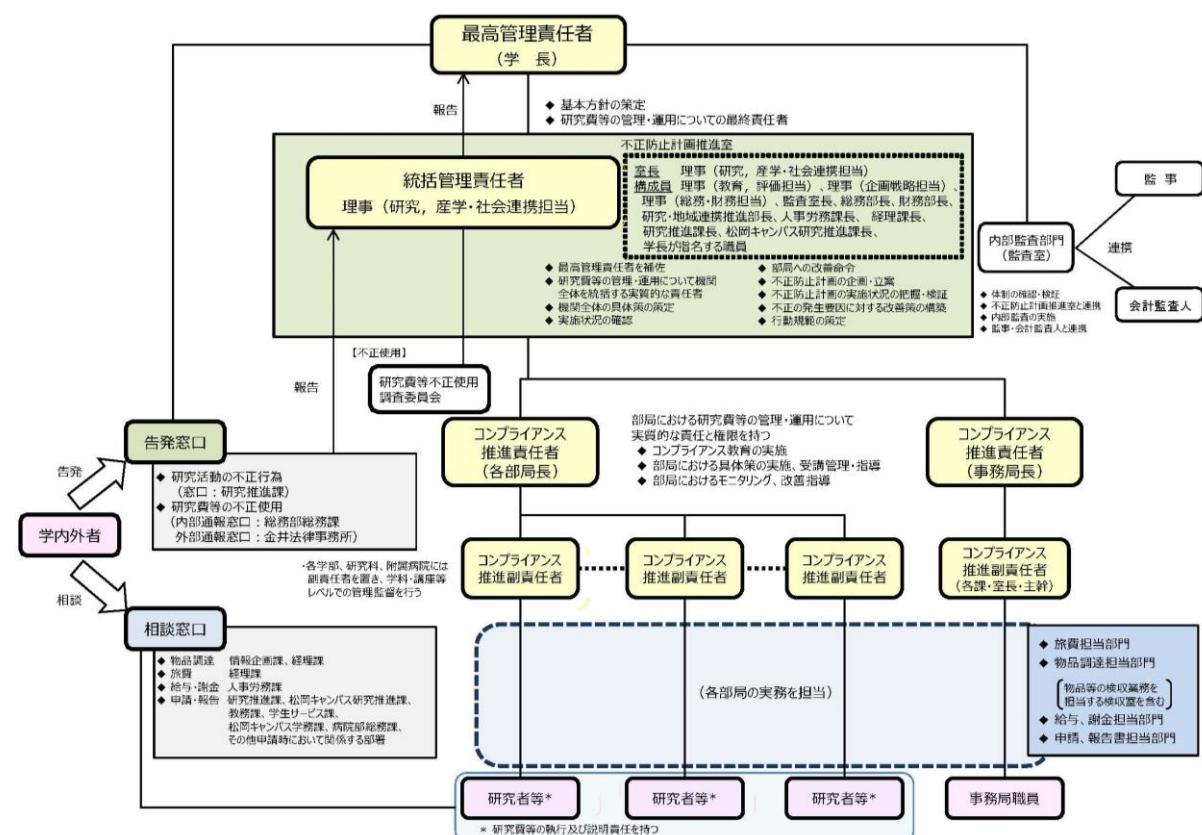
研究費等の管理運営体制

本学では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」(平成19年2月15日 文部科学大臣決定)を踏まえて、本学における公的研究費及びその他本学の資金(以下「研究費等」という。)の適正な運営・管理のために、以下のとおり不正防止対策等に取り組んでいます。

1. 機関内の責任体系の明確化
2. 適正な運営・管理の基盤となる環境の整備
3. 不正を発生させる要因の把握と不正防止計画の策定及び実施
4. 研究費の適正な運営・管理活動
5. 情報発信・共有化の推進
6. モニタリングの在り方

なお、従前より公的研究費等の事務処理手続き及び使用ルールについては、統一的な運用を図るためにマニュアル化等を行っているほか、学内外関係者から相談や問い合わせを受け付ける相談窓口も設置しています。

福井大学における研究費等の管理運営体制図



ご支援・ご協力のお願い

21世紀のグローバル社会において高度専門職業人として活躍できる人材の育成・輩出並びに地域の知の拠点として、地域社会の持続的発展に資することを目的としております。

これまでに、総額**5億3,007万2,924円**のご寄附をいただき、延べ1,599人の学生さんの修学支援に有効に活用させて頂いております。(令和4年8月末現在)

用途

<p>一般基金 福井大学全体または学部への支援</p> <p>学生修学支援事業 経済的な理由により修学が困難な学生さんの修学を支援します。</p> <p>学生・若手研究者研究支援事業 学生又は不安定な雇用状態にある研究者の研究等を支援します。</p> <p>高度専門職業人育成・研究支援事業 グローバル社会で活躍できる優れた高度専門職業人育成のための修学支援、強みや地域特性を踏まえたイノベーションの創出につながる研究活動を支援します。</p> <p>グローバル化・地域振興支援事業 グローバル化対応や地域振興のための学生・教職員の活動を支援します。</p>	<p>特定基金 特定の部局やプロジェクトへの支援</p> <p>附属病院の応援 患者さん一人ひとりに安全で質の高い医療を提供し、福井県内唯一の特定機能病院として県民のご期待に応えます。</p> <p>教職大学院の応援 次世代の教育を担う福井大学教職大学院の院生の修学を支援します。</p> <p>附属学園の応援 教育学部附属学園の教育・研究の活性化を図ります。</p> <p>周年事業 創立記念事業等への支援</p> <p>工学部創立100周年記念事業及び工学系の教育・研究の応援 令和5年12月に創立100周年を迎える工学部の記念事業並びに工学系の優れた人材の育成と研究の推進に活用します。</p>
--	--

寄附手続き等の詳細は
こちらから

Web

福井大学基金(羽ばたけ基金)®
<https://www.u-fukui.ac.jp/kikin/>



支援活動の紹介

皆様からのご寄附により、令和3年度においては、主に以下の支援活動を行いました。

支援内容 [13,627千円]

新型コロナウイルス感染症の影響によるアルバイト収入減学生への修学等奨学金	84名	1,930千円
新型コロナウイルス感染予防・拡大防止対策	—名	5,401千円
予約型奨学金	1名	300千円
学生修学支援奨学金	3名	300千円
教育学部用途特定支援	—名	40千円
医学部基金学生支援奨学金	3名	300千円
医学部臨床・臨地実習学生への緊急学生修学支援給付型奨学金	4名	120千円
国際地域学部用途特定支援	—名	100千円
連合教職開発研究科奨学金	3名	423千円
教職開発専攻奨学金	5名	1,213千円
工学部創立100周年記念事業	—名	3,500千円
計	103名	13,627千円

クラウドファンディングによる支援事業

教育研究活動等のさらなる推進のため、クラウドファンディングを活用したプロジェクトを開始しました。

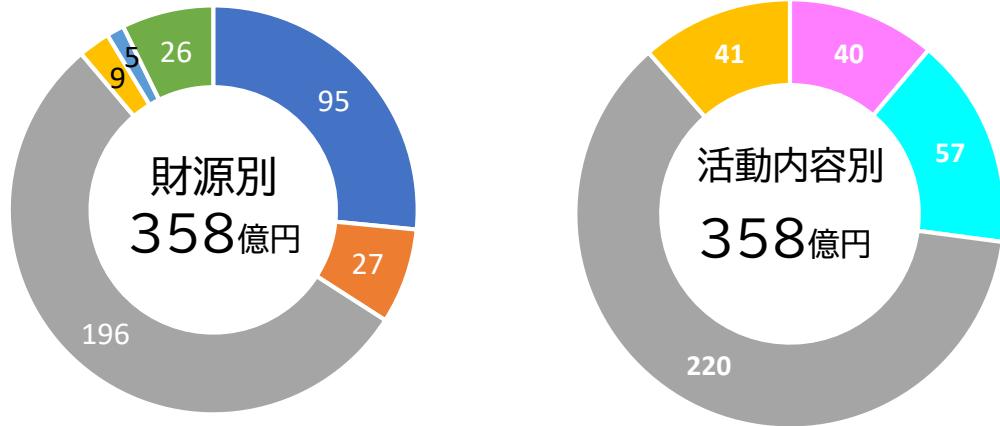
クラウドファンディングプロジェクト達成

医学部附属病院高度生殖医療センターの「不妊治療を支える：患者・医院・生殖センターを繋ぐ連携システム構築」への寄附総額は、9,044,000円となりました。



国立大学法人は公共的な性格を有し、教育・研究等の推進を目的としているため、利益の獲得を目的としておりません。運営に係る経費は学生からの納付金や病院収入、企業等からの受託研究や共同研究収益、寄附金等に加えて、国から交付されている運営費交付金でまかなわれています。

(単位:億円)



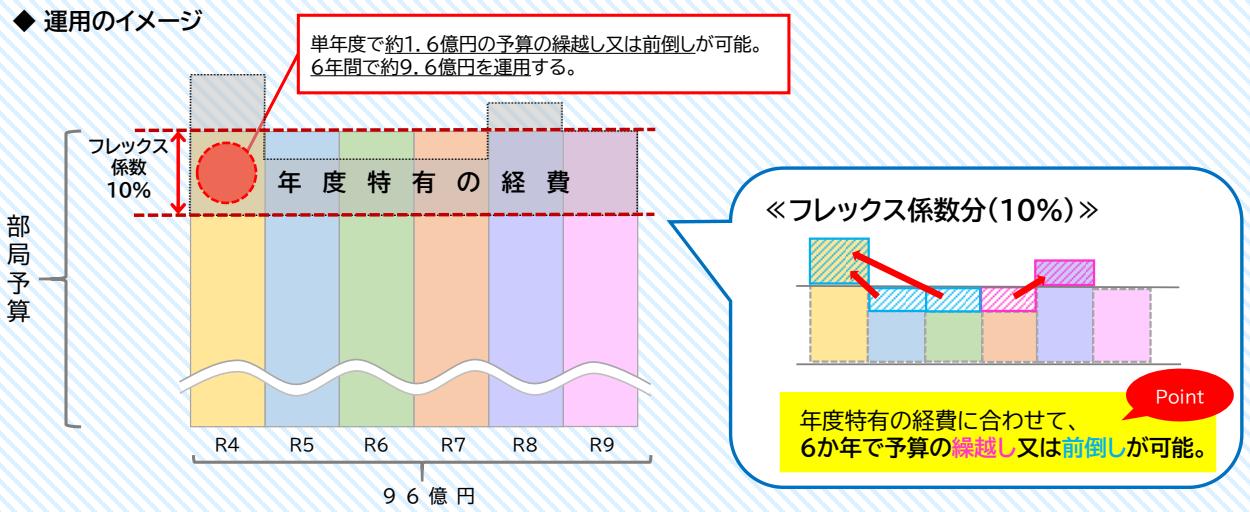
- 運営費交付金収益 ■ 授業料等収益 ■ 附属病院収益 ■ 教育に関する経費 ■ 研究に関する経費
- 受託研究等収益 ■ 寄附金収益 ■ その他 ■ 診療に関する経費 ■ 全学支援組織等の経費



財務内容の改善に向けた取組 ~フレックス予算制度の導入~

1. 「フレックス予算制度」の概要

当該年度の部局予算のうち10%(1.6億円)を上限に、6年間の事業計画に基づき第4期中の他の年度に予算を弾力的に繰越し又は前倒し使用を可能にする制度で、大学全体でムダな執行の排除に取り組むことにより、部局運営の安定化を図ります。



2. 本制度のメリット

- ✓ 当年度予算だけでは実現できなかった大きな事業が可能になります。
- ✓ 部局の執行計画(設備更新など)に合わせた柔軟な予算執行が可能になります。

活動内容別経費の「見える化」

福井大学では、人材育成、研究活動、診療等を行うために、国からの運営費交付金を始め、機関や個人から活動資金をいただいております。これらの資金を活用し、教育・研究成果の向上を図っています。しかし、教育や研究は単年度で成果を生み出すことは難しく、教育・研究に要した経費(コスト)の効果を完全に測ることはできませんが、教育・研究に要した経費を把握しお伝えすることは、ステークホルダーなど社会の皆様とのさらなる活動のためにも必要なことであると考えております。

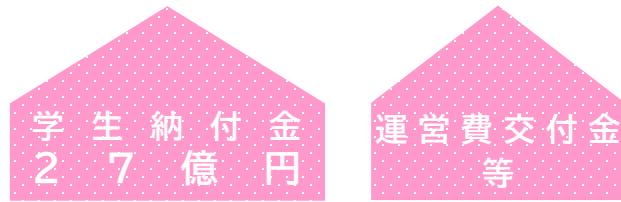
このため、各活動に要した物件費を始め、教職員の人件費や、大学が保有する設備の維持・修繕・保全費等を含む経費を、「教育経費」や「研究経費」「教育研究支援経費」等の活動内容別コストとして区分することにより、教育・研究活動にかかる経費を正しく把握し、各経費の分析に取り組んでいます。

教育に関する経費

教育経費・教育研究支援経費や教育に係る教職員人件費の総額となります。学生納付金のみではまかなうことができないため、不足分は国から交付される運営費交付金を充てています。

教育に関する経費
40億円

学生一人当たりの教育に要する経費
81万円
※一年間に学生が支払う授業料は53万円



用途

- ・教室の整備(机、椅子、空調・照明設備改修等)
- ・学内施設の整備(学生交流センター、テニスコート等)
- ・印刷製本費 ・学生への奨学金の財源
- ・学生が使用するシステムの維持管理費 等

研究に関する経費

研究経費・教育研究経費や研究に係る教職員人件費の総額となります。共同研究収益や寄附金等、地域や企業の皆様からのご支援のみではまかなうことができないため、不足分は国から交付される運営費交付金を充てています。

研究に関する経費
57億円

教員一人当たりの研究活動に要する経費
835万円
※附属病院を含む教員数 679人



用途

- ・研究棟の整備(生物資源棟・実験室等の改修)
- ・実験機器の購入と既存機器の修繕費用
- ・電子ジャーナルや専門誌の契約費用 等

貸借対照表(B/S)

貸借対照表とは、財政状況を明らかにするために、決算日におけるすべての資産(土地、建物、備品、現金及び預金等)、負債(運営費交付金債務、未払金等)および純資産(政府出資金、資本剰余金等)を記載し、報告するものです。

前年度との比較

(単位:百万円)

資産の部	令和2年度	令和3年度	増減
固定資産	75,689	76,667	978
土地	42,278	42,278	0
建物	25,456	24,881	▲575
構築物	976	1,090	114
工具器具備品	3,335	4,644	1,309
図書	2,711	2,723	13
建設仮勘定	229	31	▲198
投資有価証券	500	800	300
ソフトウェア 他	205	220	15
流動資産	14,472	14,677	206
現金及び預金	10,293	10,375	83
未収入金	4,012	4,122	110
医薬品及び診療材料	128	91	▲37
たな卸資産 他	40	90	50
資産合計	90,161	91,344	1,183

負債の部	令和2年度	令和3年度	増減
固定負債	22,795	22,994	199
資産見返負債	6,696	7,092	396
借入金	15,236	14,234	▲1,002
長期リース債務等	306	1,020	715
引当金 他	558	648	90
流動負債	10,655	10,880	226
運営費交付金債務	564	0	▲564
寄附金債務	3,792	4,023	231
未払金	3,424	3,732	309
借入金返済 他	2,875	3,125	250
負債合計	33,450	33,875	424
純資産の部	令和2年度	令和3年度	増減
資本金	50,666	50,666	0
資本剰余金	2,189	2,633	444
利益剰余金	3,856	4,171	315
純資産合計	56,711	57,470	759
負債・純資産合計	90,161	91,344	▲1,183

注) 百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

資産に関する特記事項

- *1 建物 対前年比▲575百万円: 減価償却及び建物(工学部ボイラー室、アドミッション・留学生センター)の除却による減
- *2 工具器具備品 対前年比+1,309百万円: 総合医療情報システム等の更新による増
- *3 投資有価証券 対前年比+300百万円: 電力債を購入したことによる増

負債に関する特記事項

- *8 借入金 対前年比▲1,002百万円: 借入金返済による減
- *9 長期リース債務等 対前年比+715百万円: システム等のリース物品(総合医療情報システム等)の増
- *10 運営費交付金債務 対前年比▲564百万円: 第3期最終年度の未執行額収益化による減

第1期中期目標期間から現在までの推移

(単位:百万円, 百万円未満四捨五入)

中期目標期間 資産の部	第1期			第2期			第3期			増減 (R3対前年度比)
	平成16年度	平成22年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
I 固定資産	66,161	69,022	82,634	81,185	80,278	77,908	75,689	76,667	978	
土地	42,356	42,278	42,278	42,278	42,278	42,278	42,278	42,278	0	
建物	19,813	27,641	46,429	48,080	51,140	51,889	52,165	53,336	1,171	
減価償却累計額	▲1,882	▲9,886	▲18,482	▲20,418	▲22,497	▲24,592	▲26,587	▲28,330	▲1,743	
減損損失累計額	-	-	-	▲28	▲28	▲110	▲122	▲124	▲2	
構築物	797	997	1,365	1,415	1,971	1,991	2,171	2,364	193	
減価償却累計額	▲203	▲688	▲919	▲967	▲1,033	▲1,116	▲1,194	▲1,274	▲79	
工具器具備品	3,761	16,591	26,003	26,009	27,171	27,983	27,073	29,143	2,070	
減価償却累計額	▲828	▲10,777	▲17,827	▲19,683	▲21,683	▲23,666	▲23,738	▲24,500	▲761	
図書	2,210	2,455	2,615	2,648	2,660	2,683	2,711	2,723	13	
美術品・收藏品	49	49	49	49	49	49	49	49	0	
建設仮勘定	2	259	991	1,586	18	4	229	31	▲198	
特許権	-	6	14	16	19	19	20	36	17	
ソフトウェア	62	19	85	63	70	42	66	55	▲12	
投資有価証券	-	-	-	-	100	400	500	800	300	
長期性預金	-	-	-	100	-	-	-	-	0	
その他	25	79	31	37	43	52	70	80	10	
II 流動資産	7,281	11,404	13,557	13,603	12,281	12,805	14,472	14,677	206	
現金及び預金	5,137	8,603	10,327	10,102	8,790	9,333	10,293	10,375	83	
未収学生納付金収入	26	35	39	33	30	62	48	49	1	
徴収不能引当金	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
未収附属病院収入	1,745	2,344	2,882	2,955	3,073	3,106	3,221	3,320	98	
徴収不能引当金	▲95	▲57	▲47	▲42	▲44	▲40	▲32	▲32	1	
その他未収入金	18	278	195	409	264	189	774	785	11	
たな卸資産	24	24	20	24	21	23	21	29	9	
医薬品及び診療材料	424	126	92	84	131	112	128	91	▲37	
その他	2	50	49	38	17	21	19	61	42	
資産合計	73,442	80,426	96,191	94,789	92,559	90,714	90,161	91,344	1,183	

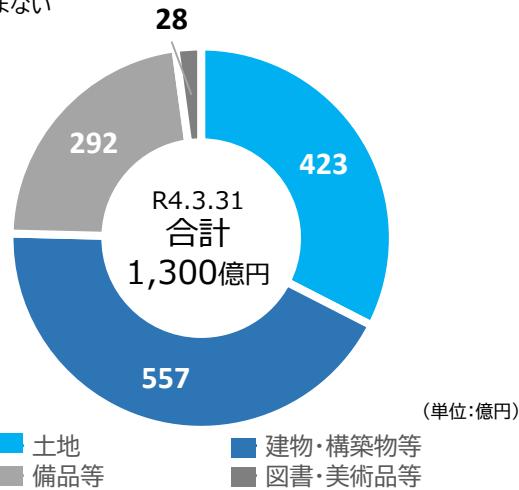
中期目標期間 負債の部	第1期			第2期			第3期			増減 (R3対前年度比)
	平成16年度	平成22年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
I 固定負債	13,396	11,892	25,525	25,653	25,751	23,895	22,795	22,994	199	
資産見返負債	4,188	6,192	8,333	7,671	7,058	6,635	6,696	7,092	396	
債務負担金	6,962	2,634	645	419	244	124	59	19	▲40	
長期借入金	2,203	2,822	14,862	16,072	16,861	16,045	15,177	14,215	▲962	
長期未払金	-	-	387	266	131	32	10	2	▲9	
その他	42	244	1,297	1,225	1,457	1,059	853	1,667	814	
II 流動負債	7,251	9,448	11,684	11,270	9,875	10,122	10,655	10,880	226	
運営費交付金債務	129	353	169	292	162	10	564	0	▲564	
寄附金債務	1,951	3,283	3,938	3,900	3,718	3,716	3,792	4,023	231	
前受委託研究費等	52	113	152	198	199	227	321	363	42	
一年以内返済予定大学改革 支援・学位授与機構債務負担金	1,323	426	274	226	175	120	65	40	▲25	
一年以内返済予定長期借入金	892	271	568	694	821	815	869	962	93	
未払金	2,753	4,087	5,297	4,649	3,325	3,669	3,424	3,732	309	
その他	150	918	1,287	1,310	1,475	1,565	1,620	1,760	140	
負債合計	20,647	21,339	37,209	36,923	35,626	34,017	33,450	33,875	424	

中期目標期間 純資産の部	第1期			第2期			第3期			増減 (R3対前年度比)
	平成16年度	平成22年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
I 資本金	50,705	50,666	0							
政府出資金	50,705	50,666	50,666	50,666	50,666	50,666	50,666	50,666	0	
II 資本剰余金	▲106	2,483	3,448	2,696	2,603	2,421	2,189	2,633	444	
資本剰余金	1,562	10,552	16,697	16,871	17,648	18,322	18,841	19,931	1,090	
損益外減価償却累計額	▲1,668	▲8,067	▲13,246	▲14,144	▲15,015	▲15,789	▲16,530	▲17,173	▲644	
損益外減損損失累計額	-	0	0	▲28	▲28	▲109	▲120	▲122	▲2	
損益外利息費用累計額	-	▲2	▲3	▲3	▲3	▲3	▲3	▲3	0	
III 利益剰余金	2,197	5,938	4,868	4,504	3,665	3,610	3,856	4,171	315	
前中期目標期間繰越積立金	-	4,819	5,347	4,868	4,504	3,665	3,610	3,610	0	
教育研究環境向上積立金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
積立金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
当期末処分利益	2,197	1,119	-	-	-	-	-	-	-	
当期末処理損失	-	-	▲479	▲364	▲838	▲55	246	561	315	
純資産合計	52,796	59,087	58,982	57,866	56,934	56,696	56,711	57,470	759	
負債・純資産合計	73,442	80,426	96,191	94,789	92,559	90,714	90,161	91,344	1,183	

施設等取得額・老朽化比率の年度別推移

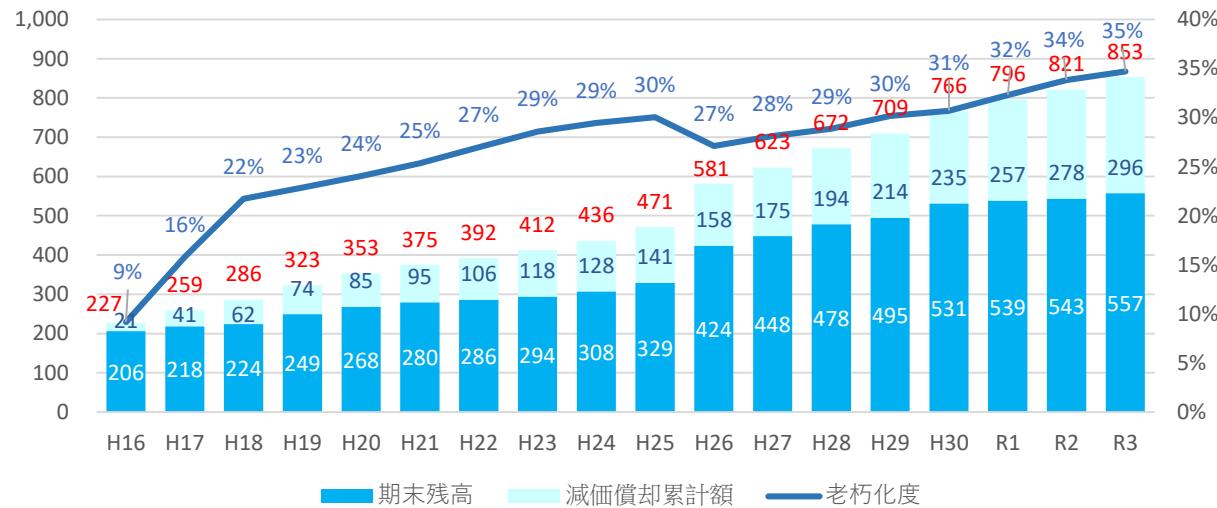
主要な有形固定資産の内訳

※減価償却累計額、減損損失累計額は含まない



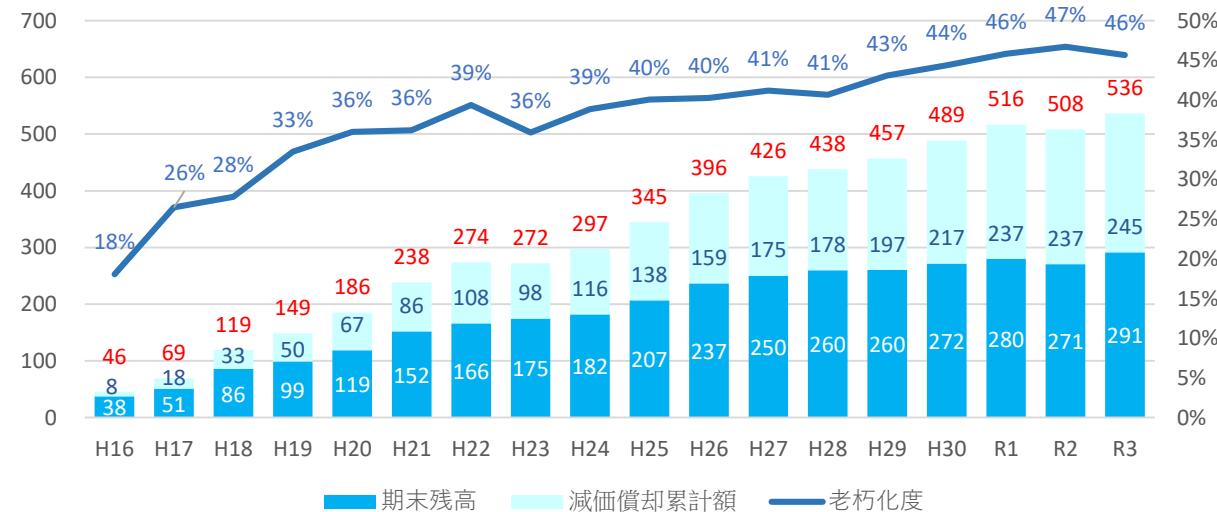
建物等

(単位:億円)



備品

(単位:億円)



損益計算書(P/L)

損益計算書とは、運営状況を明らかにするために、一事業年度におけるすべての費用(教育経費、研究経費等)と収益(運営費交付金収益、学生納付金収益等)とを記載し、報告するものです。

前年度との比較

(単位:百万円)

注) 単位:百万円, 百万円未満は四捨五入しており, 計は必ずしも一致しません。

経常費用	令和2年度	令和3年度	増減
教育研究経費	2,782	2,788	6
診療経費	13,575	13,490	▲85
教育研究支援経費	398	449	51
受託研究費等	876	913	37
人件費	16,896	17,270	374
一般管理費	623	640	17
財務費用	72	73	1
経常費用合計	35,222	35,623	401

経常費用に関する特記事項

*1 人件費 対前年比+374百万円: 退職手当等の増

経常収益	令和2年度	令和3年度	増減
運営費交付金収益	9,057	9,543	486
授業料等収益	2,760	2,651	▲109
施設費収益	124	201	77
附属病院収益	19,178	19,551	373
受託研究費等収益	872	916	44
寄附金収益	534	545	11
資産見返負債戻入	796	760	▲36
財務収益	3	4	1
補助金収益 他	2,221	1,649	▲572
経常収益合計	35,544	35,819	275

経常収益に関する特記事項

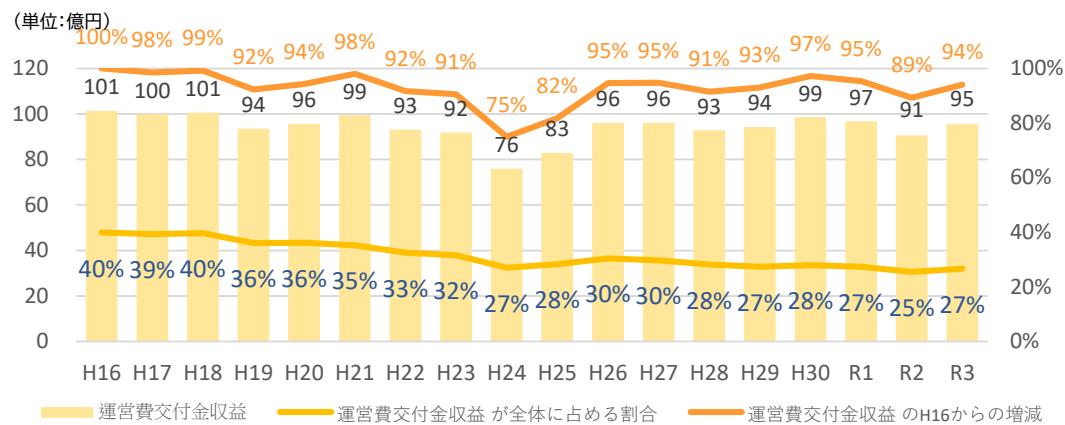
*2 運営費交付金収益 対前年比+486百万円: 令和2年度から繰越があった業務達成基準適用分の収益化による増及び退職手当の増

第1期中期目標期間から現在までの推移

(単位:百万円, 百万円未満四捨五入)

中期目標期間	第1期	第2期	第3期			増△減 (R3対前年度比)			
	16年度	22年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
経常費用									
業務費	22,619	26,672	32,647	33,979	35,408	34,620	34,527	34,910	△384
教育経費	731	1,157	1,330	1,270	1,407	1,262	1,238	1,260	△22
研究経費	998	1,562	1,547	1,608	1,658	1,848	1,544	1,528	△15
診療経費	6,727	8,275	12,068	12,941	13,630	13,008	13,575	13,490	△85
教育研究支援経費	421	458	424	379	390	382	398	449	51
受託研究(事業)費等	493	1,238	1,090	1,043	866	885	876	913	37
人件費	13,248	13,983	16,188	16,739	17,456	17,235	16,896	17,270	374
一般管理費	559	605	610	624	615	613	623	640	17
財務費用	465	177	152	131	115	92	72	73	1
支払利息	465	177	152	131	115	92	72	73	1
その他の財務費用	-	-	0	0	0	0	0	0	0
雑損	6	-	-	-	-	-	-	-	-
経常費用合計	23,643	27,461	33,409	34,734	36,138	35,325	35,222	35,623	401
経常収益									
運営費交付金収益	10,406	9,305	9,278	9,426	9,857	9,674	9,057	9,543	486
学生納付金収益	3,068	2,812	2,909	2,923	2,893	2,893	2,760	2,651	△109
附属病院収益	10,007	13,443	17,006	18,295	18,882	19,259	19,178	19,551	373
補助金等収益	0	324	208	323	318	327	1,809	1,314	△495
受託研究(事業)費等収益	499	1,227	1,088	1,040	863	882	872	916	44
寄附金収益	444	293	499	631	719	657	534	545	11
資産見返負債戻入	1,035	794	1,369	1,276	1,099	943	796	760	▲36
その他	182	386	573	458	673	638	539	540	1
経常収益合計	25,642	28,584	32,929	34,372	35,304	35,272	35,544	35,819	275
経常利益	1,998	1,123	△479	△362	△834	△53	322	196	126
臨時損失	1,344	18	17	56	8	18	91	77	△14
臨時利益	1,543	13	13	54	3	16	16	378	362
目的積立金取崩額	-	-	-	-	-	-	-	65	65
前中期目標期間繰越積立取崩額	-	-	5	-	-	-	-	-	-
当期総利益(△は損失)	2,197	1,119	△479	△364	△838	△55	246	561	315

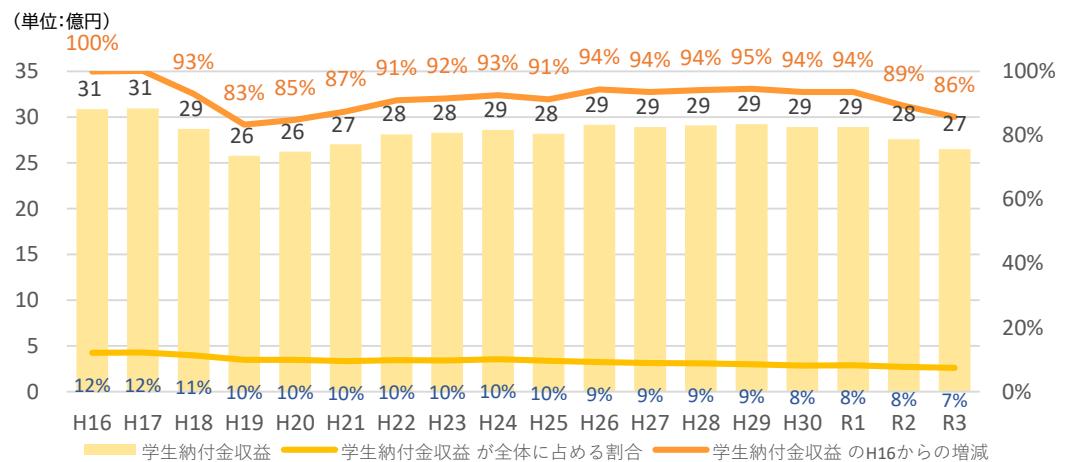
主要な経常収益が全体に占める割合と推移



H16→R3
金額の増減率

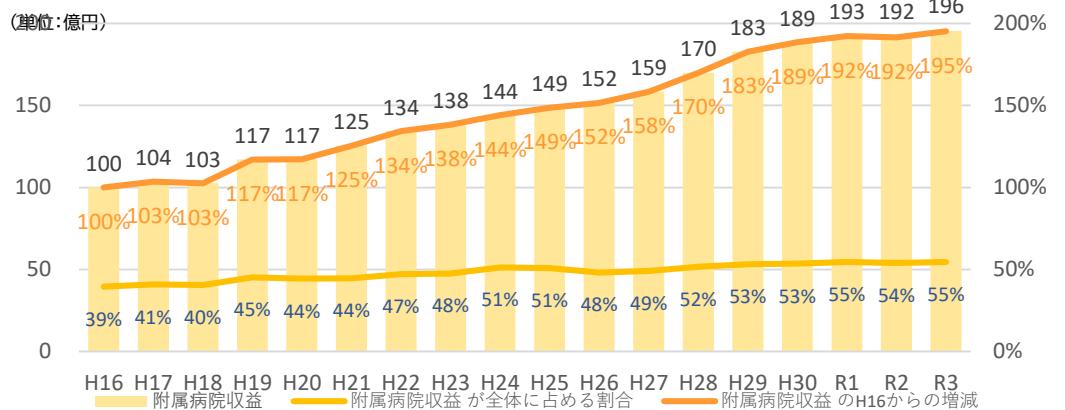
運営費交付金収益

▲6%



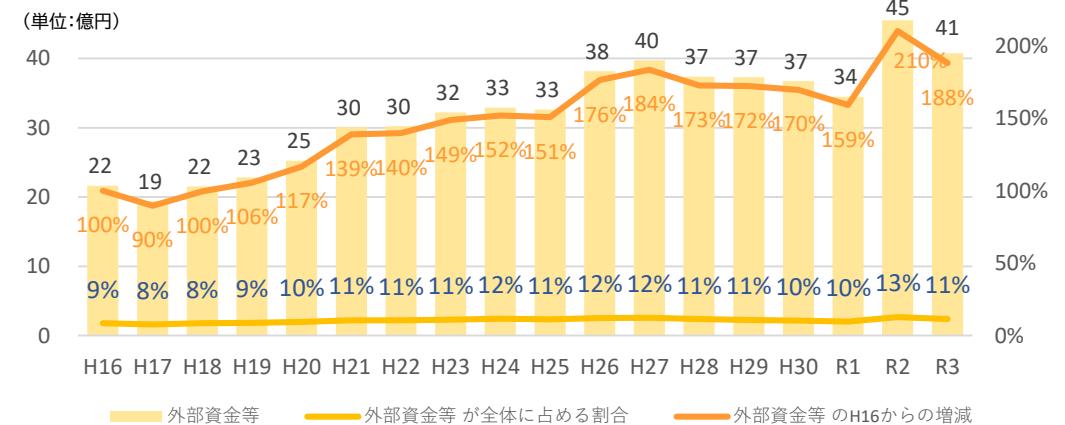
学生納付金収益

▲14%



附属病院収益

+95%



外部資金等の収益

+88%

利益の処理

(単位:百万円)

I 当期末処理利益	
当期総利益	561
II 前中期目標期間繰越積立金	3,610
III 積立金	4,171

キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書とは、資金の調達や運用状況を明らかにするため、一事業年度の資金の流れを「業務活動」・「投資活動」・「財務活動」の三分の区分に分けて表示し、報告するものです。

(単位:百万円)

活動区分	3年度
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	3,618 (+)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,633 (-)
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,602 (-)
IV 資金に係る換算差額	-
V 資金増加額・減少額	▲617
VI 資金期首残高	7,292
VII 資金期末残高	6,674

I 業務活動：プラス計上となり、業務活動が順調に行われたことを表す。

II 投資活動：固定資産の取得及び有価証券の取得によりマイナス計上となったが、本学が積極的に施設等を更新し、資金を運用していることを表す。

III 財務活動：リース債務の返済や借入金の返済に伴いマイナス計上となっているが、適正に債務の返済を行っていることを表す。

第1期中期目標期間から現在までの推移

(単位:百万円, 百万円未満切り捨て)

中期目標期間	第1期 16年度	第2期 22年度	28年度	29年度	第3期 30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	増△減 (R3対前年度比)
I 業務活動によるキャッシュ・フロー									
原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲3,786	▲9,370	▲12,063	▲12,428	▲12,692	▲13,094	▲13,458	▲14,392	▲934
人件費支出	▲12,532	▲14,554	▲16,667	▲16,659	▲17,300	▲17,437	▲17,281	▲17,211	69
その他の業務支出	▲3,396	▲620	▲605	▲592	▲561	▲529	▲577	▲449	127
運営費交付金収入	11,015	9,919	9,489	9,736	9,945	9,771	9,715	9,711	▲3
学生納付金収入	2,753	2,980	2,877	2,838	2,794	2,696	2,712	2,757	44
附属病院収入	9,891	13,224	16,865	18,214	18,763	19,225	18,982	19,448	466
受託研究(事業)費等	540	1,212	1,085	888	1,084	933	968	995	27
補助金等収入	-	513	288	393	449	445	1,787	1,803	▲15
寄附金収入	435	602	601	631	595	686	637	796	159
その他収入	197	281	466	405	332	388	431	321	▲119
小計	5,117	4,190	2,336	3,426	3,411	3,084	3,918	3,617	▲301
国庫納付金の支払額	-	▲427	▲15	-	-	-	-	-	-
業務活動によるキャッシュ・フロー	5,117	3,762	2,321	3,426	3,411	3,084	3,918	3,617	▲301
II 投資活動によるキャッシュ・フロー									
有価証券の取得による支出	-	-	-	-	▲100	▲300	▲100	▲300	▲200
有形固定資産の取得による支出	▲731	▲3,307	▲4,037	▲4,374	▲5,562	▲1,504	▲2,137	▲2,540	▲403
無形固定資産の取得による支出	▲13	▲23	▲24	▲34	▲42	▲30	▲49	▲56	▲7
定期預金の預入による支出	-	▲11,497	▲7,010	▲8,910	▲10,500	▲14,900	▲7,200	▲9,000	▲1,799
定期預金の払出による収入	-	12,368	7,160	7,510	9,610	14,900	8,400	8,300	▲100
施設費による収入	71	791	670	362	838	952	937	1,032	95
その他の投資支出	0	0	0	0	▲2	0	0	▲74	▲74
小計	▲673	▲1,667	▲3,241	▲5,446	▲5,759	▲880	▲150	▲2,637	▲2,487
利息及び配当金の受取額	0	10	4	1	1	3	3	4	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲673	▲1,656	▲3,237	▲5,445	▲5,757	▲876	▲146	▲2,633	▲2,486
III 財務活動によるキャッシュ・フロー									
長期借入れによる収入	-	96	3,479	1,903	1,609	-	-	-	-
長期借入金の返済による支出	-	▲185	▲513	▲568	▲694	▲820	▲815	▲868	▲53
大学改革支援・学位授与機構債務負担金に係る支出	▲1,397	▲456	▲290	▲274	▲226	▲174	▲120	▲65	54
大学改革支援・学位授与機構債務からの借入	489	-	-	-	-	-	-	-	-
リース債務の返済による支出	▲5	▲687	▲383	▲433	▲527	▲574	▲603	▲595	8
小計	▲913	▲1,233	2,292	627	161	▲1,570	▲1,538	▲1,528	10
利息の支払額	▲426	▲180	▲152	▲134	▲117	▲93	▲73	▲72	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,340	▲1,414	2,140	493	44	▲1,663	▲1,612	▲1,601	11
IV 資金に係る換算差額									
V 資金増加額	3,103	691	1,224	▲1,525	▲2,302	544	2,159	▲617	▲2,776
VI 資金期首残高	2,033	5,781	7,190	8,415	6,890	4,588	5,132	7,291	2,159
VII 資金期末残高	5,137	6,473	8,415	6,890	4,588	5,132	7,291	6,674	617

業務実施コスト計算書

業務実施コスト計算書とは、納税者である国民の国立大学法人等の業務に対する評価、判断に資するため、一会計期間に属する国立大学法人等の業務運営に関し、国立大学法人等業務実施コストに掛かる情報を一元的に集約して表示するものです。

活動区分	R2年度	R3年度	増減
国立大学法人等業務実施コスト	12,112	12,448	336
(国民1人当たりの負担額)	(97円)	(99円)	(2円)

(単位:百万円, 百万円未満四捨五入)

中期目標期間 科目	第1期		第2期		第3期			増△減 (R3対前年度比)	
	16年度	22年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度		R3年度
I 業務費用									
(1)損益計算書上の費用									
業務費	22,619	26,672	32,647	33,979	35,408	34,620	34,527	34,910	384
一般管理費	559	605	610	624	615	613	623	640	17
その他費用	1,809	201	169	187	123	110	164	151	▲13
(2)(控除)自己収入等									
学納金収益	▲3,068	▲2,812	▲2,909	▲2,923	▲2,893	▲2,893	▲2,760	▲2,651	109
附属病院収益	▲10,007	▲13,443	▲17,006	▲18,295	▲18,882	▲19,259	▲19,178	▲19,551	▲373
受託研究等収益	▲499	▲1,227	▲1,088	▲1,040	▲863	▲882	▲872	▲916	▲44
その他収益	▲613	▲794	▲1,192	▲1,302	▲1,348	▲1,281	▲1,168	▲1,064	104
II 損益外減価償却等相当額	1,669	897	1,005	933	878	789	785	812	27
III 損益外減損損失相当額	-	-	-	28	-	789	11	2	▲8
IV 損益外利息費用相当額	-	2	0	0	0	0	0	0	0
V 損益外除売却差額相当額	-	135	7	7	0	0	4	0	▲3
VI 引当外賞与増加見積額	-	▲11	27	3	▲1	2	▲43	2	46
VII 引当外退職給付増加見積額	632	247	▲41	▲160	▲424	▲165	▲157	▲114	43
VIII 機会費用	777	671	147	136	113	372	177	226	49
IX 国立大学法人等業務実施コスト	13,878	11,143	12,377	12,179	12,725	12,109	12,112	12,448	335

決算報告書

決算報告書とは、国における会計認識基準に準じ、現金主義を基礎としつつ出納整理期の考え方を踏まえ、一部発生主義を取り入れて国立大学法人等の運営状況を収入・支出ベースで報告するものです。

注) 単位:百万円, ()内は内数です。
百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	予算額	決算額	収支差 (決算 - 予算)
収入			
運営費交付金	9,667	10,276	609
施設整備費補助金	1,063	1,049	▲14
補助金等収入	752	1,654	902
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	30	30	-
自己収入	22,545	22,696	151
(授業料、入学科及び検定料収入)	(2,700)	(2,759)	(59)
(附属病院収入)	(19,539)	(19,403)	(▲136)
(雑収入)	(306)	(533)	(227)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,745	1,757	12
引当金取崩	251	214	▲37
長期借入金収入	0	0	-
目的積立金取崩	-	246	246
計	36,053	37,921	1,868
支出			
業務費	31,604	31,421	▲183
(教育研究経費)	(12,802)	(13,158)	(356)
(診療経費)	(18,802)	(18,263)	(▲539)
施設整備費	1,093	1,079	▲14
補助金等	625	1,693	1,068
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,745	1,492	▲253
長期借入金償還金	986	985	▲1
計	36,053	36,670	617
収入-支出	0	1,251	1,251

決算報告書に関する特記事項

- * 収入-支出額 1,251百万円:
退職給付引当金、賞与引当金増減額 309百万円
外部資金の繰越額 94百万円
(受託研究費等・寄附金・補助金)
その他の繰越額 848百万円
(退職手当・医療機器整備事業・施設整備事業等)



第1期中期目標期間から現在までの推移

(単位:百万円, 百万円未満四捨五入)

中期目標期間 区分	第1期		第2期		第3期			増△減 (R3対前年度比)	
	16年度	22年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度		R3年度
収入									
運営費交付金	11,015	9,920	9,489	9,905	10,238	9,933	9,726	10,276	550
施設整備費補助金	72	746	646	332	809	923	861	1,049	188
施設整備資金貸付金償還時補助金	26	-	-	-	-	-	-	-	-
補助金等収入	-	683	237	390	500	381	2,414	1,654	▲760
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	-	45	30	30	30	30	30	30	-
自己収入	12,649	16,476	20,171	21,445	22,321	22,623	22,369	22,696	327
授業料、入学科及び検定料収入	2,595	2,981	2,878	2,838	2,794	2,697	2,714	2,759	45
附属病院収入	9,900	13,225	16,865	18,215	18,763	19,225	19,033	19,403	371
雑収入	154	270	428	392	763	700	622	533	▲89
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	3,023	1,844	1,719	1,722	1,465	1,599	1,597	1,757	160
引当金取崩	-	80	169	201	211	198	213	214	1
長期借入金収入	489	96	3,480	1,904	1,610	0	0	0	-
目的積立金取崩	-	-	5	-	-	-	-	246	246
計	27,275	29,891	35,945	35,929	37,183	35,686	37,209	37,921	712
支出									
業務費	21,611	24,521	28,259	29,513	30,843	30,690	29,683	31,421	1,738
教育研究経費	11,466	12,690	12,417	12,759	13,211	12,791	12,653	13,158	505
診療経費	10,145	11,830	15,843	16,754	17,632	17,899	17,029	18,263	1,233
施設整備費	561	888	4,155	2,266	2,448	953	891	1,079	188
補助金等	-	679	237	390	500	381	1,925	1,693	▲232
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,004	1,506	1,655	1,739	1,622	1,571	1,444	1,492	48
長期借入金償還金	1,850	807	918	942	1,003	1,064	994	985	▲9
計	25,027	28,400	35,224	34,850	36,415	34,658	34,937	36,670	1,733
収入-支出	2,248	1,491	721	1,079	768	1,028	2,272	1,251	▲1,021



統合報告書2022は、福井大学の財務・非財務情報から、大学価値の向上に資する重要度の高い情報を集約することで、ステークホルダーの皆様が理解しやすい内容に編集しました。より詳細な情報に関しては、本学ウェブページに掲載しています。

財務諸表の公表について

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/finance/management09/>)



福井大学の特色ある取組

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/public/pub/distinctive/>)



中期目標・中期計画

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/outline/management01/>)



基礎資料

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/public/pub/material/>)



大学案内

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/public/pub/viewbook/>)



環境報告書

(<http://ems.ou.u-fukui.ac.jp/iso/d-01.html>)



ウェブサイトのご案内

研究に関する情報 — 研究シーズ情報 —

(<http://www.hisac.u-fukui.ac.jp/seeds/seeds25/top.html>)



教育に関する情報 — 3つのポリシー —

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/about/policy/>)



国立大学法人ガバナンス・コード

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/disclosure/management11/governancecode/>)

